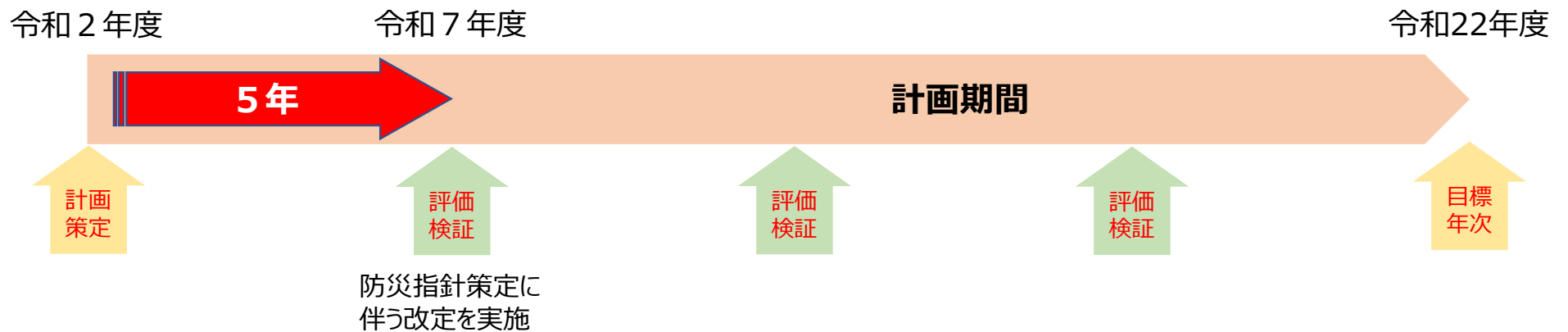


立地適正化計画の中間評価について

基山町立地適正化計画は、居住や都市の生活を支える機能の誘導によるコンパクトなまちづくりと地域交通の再編との連携により、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくりを推進する計画です。

令和2年度に策定し、令和7年度で5年目を迎えることから、施策の実施において「持続可能な都市構造の維持」が推進されているかを評価するため、目標値に対しておおむね5年毎に中間評価を行います。



【都市再生特別措置法】

・第84条第1項

市町村は、立地適正化計画を作成した場合においては、おおむね五年ごとに、当該立地適正化計画の区域における住宅及び都市機能増進施設の立地の適正化に関する施策の実施の状況についての調査、分析及び評価を行うよう努めるとともに、必要があると認めるときは、立地適正化計画及びこれに関連する都市計画を変更するものとする。

立地適正化計画の中間評価について

項目		基準値	現状値	目標値 (令和22年時点)	評価結果
誘導 施設数	基山駅周辺 都市機能誘導区域	14施設 (令和2年時点)	14施設 (令和7年時点)	14施設	現状値は基準値から増減なし。現状値と目標値は同じですが、引き続き、官民連携による施設整備に努めていきます。
	けやき台駅周辺 都市機能誘導区域	1施設 (令和2年時点)	1施設 (令和7年時点)	4施設	現状値は基準値から増減なし。引き続き、官民連携による施設整備に努めていきます。
居住誘導区域の人口密度		40.7人/ha (平成27年時点)	54.6人/ha (令和2年時点)	目標値 51.7人/ha 推計値 50.0人/ha	現状値は基準値に対して高く推移しており、一定の人口密度が確保されることで、生活利便性が維持されています。
鉄道駅徒歩圏 (800m)の人口密度		28.4人/ha (平成27年時点)	29.0人/ha (令和7年時点)	目標値 27.5人/ha 推計値 25.8人/ha	現状値は基準値に対して若干高く推移しており、鉄道駅徒歩圏に居住を誘導することで、交通アクセスの利便性は維持されています。
新たな交通手段（スマートモビリティ）の運行系統数		0系統 (令和2年時点)	0系統 (令和7年時点)	1系統	現状値は基準値から増減なし。令和7年度までデマンド交通の実証実験を実施しており、今後本格導入に取組みます。
コミュニティバスの年間利用者数		22,600人/年 (令和2年時点)	32,538人/年 (令和6年時点)	28,800人/年	現状値は基準値に対して高く推移しており、移動サービスが維持されています。引き続き拠点間のアクセス性向上に努めます。
これからも基山町に住み続けたい と思う町民の割合		84.5% (令和2年時点)	82.3% (令和5年時点)	90.0%	現状値は基準値に対して若干低く推移している。引き続き、「まちづくりの方針」をもとに設定した誘導施策に取組みます。
高齢者支援の満足度		55.5% (令和2年時点)	58.3% (令和5年時点)	60.0%	現状値は基準値に対して若干高く推移している。引き続き、高齢者の移動手段確保・維持や、健康的に暮らせる環境づくりを目指します。

防災指針の見直しについて

令和2年6月の都市再生特別措置法の改正により、立地適正化計画に防災対策や安全確保等を定める「防災指針」の作成が新たに追加されました。

今回、各種ハザードエリア等を基に分析及び評価を行い、基山町の居住誘導区域における災害リスクの状況を再度整理し、防災指針を更新しました。

【主な更新箇所】

- ・基山町洪水・土砂災害ハザードマップ[°]情報の反映（令和7年3月作成）
- ・基山町ため池ハザードマップ[°]情報の反映（令和3年3月作成）
- ・避難訓練の実施状況を追記（令和3年度以降実施分）
- ・秋光川等の洪水浸水想定区域（想定最大規模、浸水継続時間等）情報の反映
- ・災害リスク分析の視点を追加
- ・取組み事項の表に、主体・実施時期を追加
- ・取組みの目標値に対しての現状値を追記

【今後の予定】

2月9日（月）から実施しているパブリックコメントの意見を素案に反映し、計画（最終案）を都市再生特別措置法に基づき都市計画審議会に諮問します。